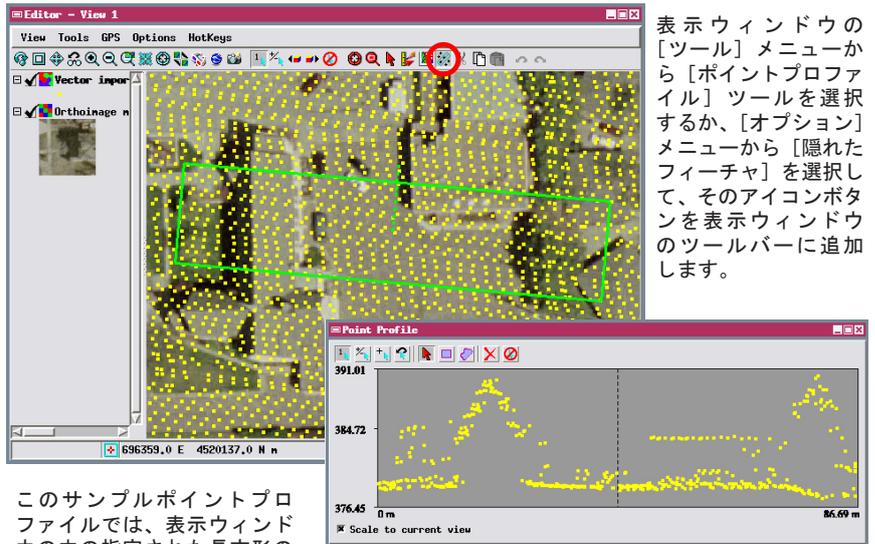


ポイントプロファイルツール

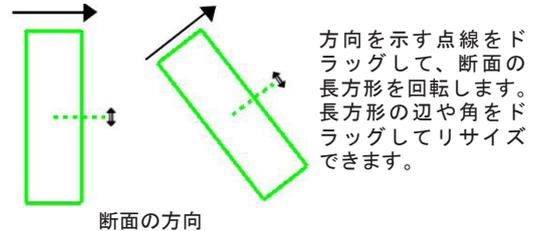
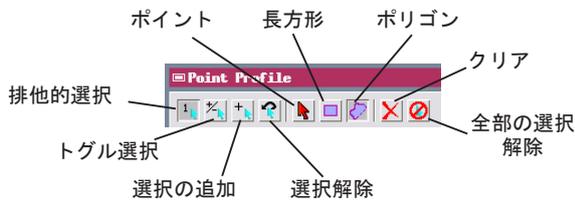
ポイントプロファイルツールは、表示ウィンドウで指定した長方形の領域の中の3次元ポイントに対して垂直断面図を作成します。このツールは、リンクしたLASファイル中のLIDARポイントを含む複数の3次元ベクタまたはシェープオブジェクトの中のポイントに対して使うために設計されています(テクニカルガイドの“システム: LAS LIDARポイントファイルをシェープオブジェクトとして使用する(System: Use LAS LIDAR Point Files as Shape Objects)”をご覧ください)。ポイントプロファイルを使うと、3次元ポイントの空間的関係を可視化することができ、またいくつかの方法で断面の中のポイントやポイントグループを手動で選択することができます。さらにこれらのポイントを表示ウィンドウで自動的に選択することができます。表示ウィンドウの中のツールのアクティブな領域で手動で選択したポイントは、断面図でも選択されます。ポイントプロファイルツールはTNT製品の全ての表示ウィンドウで使うことができ、TNT Editorでは選択したポイントを編集、削除することができます。



表示ウィンドウの[ツール]メニューから[ポイントプロファイル]ツールを選択するか、[オプション]メニューから[隠れたフィーチャ]を選択して、そのアイコンボタンを表示ウィンドウのツールバーに追加します。

このサンプルポイントプロファイルでは、表示ウィンドウの中の指定された長方形の領域(緑色の四角形)の中のLIDAR高度ポイント(黄色)を表示しています。表示ウィンドウではポイントは約30cm解像度のカラー正射画像の上に表示されています。断面図の中のカーソルの位置の高度が、断面の垂直軸上に動的に表示されます。

表示ウィンドウの任意の場所にツールの長方形を描画して、リサイズ、再配置、回転を行うことができます。長方形の外側に伸びる点線は断面図を表示する方向を示し、ハンドルを使ってその中心の周りに長方形を回転させることができます。〈ポイントプロファイル〉ウィンドウをリサイズして、断面図の大きさを自由に変えたり垂直方向に伸ばして強調することができます。垂直方向のスケールはデフォルトでは表示しているポイントの高度範囲に設定されています(プロファイルの上下に若干すき間があります)。[Scale to current view]トグルのチェックをはずすと、垂直方向のスケールが現在表示されているオブジェクトの中の全てのポイントの高度範囲に合うようにリセットされます。



〈ポイントプロファイル〉ウィンドウ(左上図)には、断面図中のポイントやポイントグループを選択するためのポイントや長方形、ポリゴンツールがあります。選択したポイントは表示ウィンドウの中でも自動的に選択されます。下の図では、選択したポイント(赤で表示)だけを参照画像の上に表示するようポイントレイヤは隠されています。



[長方形] ツールを使ってポイントプロファイルの中で選択したポイント。この水平直線は、平らな屋根に相当します。



[ポリゴン] ツールを使って選択したプロファイルポイント。これらの高位置のポイントの集合は、樹木の樹冠からののはね返りです。